国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号 本別3-1

ガラス使用

闇魔庵図書部

国会図書館

夢浮橋　一名法の師

河海抄物語の事ども相違ども
ありて名づけ或ハ一部の名を
の浮橋と歟もろもろ尋ぬべし
當ニ元曼の浮橋とつづけ
ありの浮橋ともあり
全くなよひの云をそ
つまをあらハし盛者必衰の
今の歟目を楽をうよ元曼と
いづまを曼よめるぞとのふる
猶如昨夢と法花大圓覚経
槃猶如昨夢故當知生死及与涅槃
滅無来無去唯識論も未得真
覚常處夢中故佛説解生死

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

長夜とあり。内外の經書よび義よ外くさ多くの義あり。こゝを
ゝゑあくまで。香山居士の詞よ。言下に忘言一時畢。夢中に說夢兩重虛
とあるもびんくゝ。次よ源楯といふ人の伊勢物語伊勢拜考に天治楯の上
にて共為吏婦ともよびて。陰陽をさごめ。別國とせてゝ。ハ
我國の始めこれゝゑ女のまゝひとり彼漢家の
風を慕し。倍を易り詩三百篇の中あを。関雎麟趾の化より
鵲巢騶虞の徳よりてゝ詩序に。関雎ハ后妃の徳こ
つゝり。陰陽万物をまゝり始く。夫婦ハ人倫の
風之始也。正二風化天下一而生二夫婦一。故用二之鄉人一焉。周公の風と
國焉とゝり。されハ源楯が生死の路も。仏教の根元也。ゑと世
ゑ出世法階如幻如夢也とゝふくゝ。祖師の理こ是菩提也。煩惱即
菩提生死即涅槃の義よ居よ
をでよゝてゐるなり。若ゑ諸經の說相こゑ序正流通の三段

あり。流通分にいゝりくゝ。題名をあくゝいて常途の義く今の
抽絡を終書を夢源楯と号をゝ。ゑの別名のこよあくゝ。一
部の趣名るべし。さくゝ光源氏抽君とよゝてくゝ。我ゑ源楯抽
沢ともいふべき。且ゝ抽絡を光源氏と名づけ。ゑの教を此七帖
よりさしらも。同城の此七ゑの名ゝとゝひくゝゝ。ゑゝ
の名師沢蘇。郷又ハテ愚案加潤色也。但再三案ゑ。玄ゑ乃
義ハゑの一字のみハ別のくゝ。源楯ハ義よひゝれて如来と
ゑ羽ゑ。元南陳の義ハ抽ゑゝゑをゝくゝ。我ハ源楯抽
幸奇の世の中ハ義のゝりのくゝゝゝゝゝゝ抽
とゝゝりくゝとゝゑゝゝ。定ゑゝの義
乃義のくゝ抽とゝゝえくゝての奇ゑ
を抽ゑよゝ抽絡をゝゝくゝ。

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

化の謂也且有大笑而後知天下之為大笑也漢家寓言を一朝の笑よそえ申候百年の笑は化し和國の寓言を一朝の笑よそえ申候左伝海中器記す細蓋九七器を用ゐ未の月亀をまぐくのるるよし此亀いそ来の亥也亀の名ゆゑ河海ゐあるも笑のゆ経久おとひさりおり別していま亀の名熊じくハ一部の名さるべしさく此亀よとりていま多の亀の一生さるみづから笑のごとし或ハ法輿よりて常陸よりそうし称よのかりてもおさまり蓋大将の一生ハ此亀のごとし盛衰毀譽の笑幻なるそれハ桐壺の巻そうし源氏の玉乃一生のゆ幻の巻ハ古今よあるこうして見せ侍るおりおさと部号よとそくる古来多くあり今巻此物語を偏よ

荘子の学法よりわりおりよ彼逍遥篇を逍遥とよみくれのまいゆ又次の斉物論篇をものごとくづれも色を用くる名付ることぐ人あく笑いそうよ見ゆさうひも行ゆるあり又楊子もゆさみの上ゆも石をそんあり色基源るり物乱此亀ハ名分斉物論い初よい南郭子綦隠几飛如槁木とそるゆうろうく胡蝶の夢乃ゆそ出とめくべく栃木ゆごのゆうゆく人よ拵られくやそる人と出て此亀に笑のゆうゆひ出れどさくにおゆるゆもるくおやしういるゆりりる笑よそゆそんと出侍り胡蝶の夢よりそ人と出て此亀ハ名付ゆ多の亀の一生乃ゆそいぬ山よりそ

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

いらへきこえんやうおもひま
はさる　抄 僧都の恐怖
して返答のやうを案
思案をめぐらしたる也

なかゝあらがひかくさんは
抄 後にきこえてはいふかひなき也
とばかりおもひえて
抄 とばかりハ暫く思案を
めぐらして只ありのまゝ
にかたらんと思ひなる也
あやしみおもひ給ふる人の御
事　抄 浮舟のうせを連々
不審しけるよし
らうけ　河 老気 老病ニ
云ふ 労気 細 病労の義
可然　三 老気也

とやつしけることゝむねつぶれて。いらへき
こえんやうおもひまはさる。たしかにきゝたまへる
にこそあめれ。かばかり心えたまひてうかゞひ
たづねたまはんに。かくれあるべきことにもあら
ず。中々あらがひかくさんにあいなかるべし
しなどとばかりおもひえて。いかなることに
かはべりけん。この月ごろうちうちにあやし
み思うたまふる人の御ことにやとて。かしこに
侍るあまどもの。はつせに願侍りて。まうでゝ
かへりけるみちに。宇治の院といふ所にとゞ
まりて侍けるに。母のあまのらうけにはかに
おこりて。いたくなんわづらふとつげに

おやのしにかへるとハ
抄 僧都の母のまへ僧都の
妹の尼君のあつかひなげけ
ることをいふなるへし
たまどの　細 魂殿にハ又
不可説又宇治のうちあれ
ど 抄 宇治郷子の殯をまふ
けてうせたるひとをおける
おけべきところ也　花 魂殿
は山陵をいふ也。後漢
書に呂太后の山陵とあり
て赤眉の党のおかしたる
ことを河海抄の説略に
ひきてにあつかひね従
うりふまへとときさ
まくんへのさとひとといふ
もしうへの人の死せる
ときもでまず入棺して大徳

人のまうできたりしかば。まかりむかひたりし
に。まづあやしき事なんとさゝめきて。
おやのしにかへるをばさしおきて。もてあつか
ひなげきてなん侍し。此人もなくなりたま
へるさまながら。さすがにいきはかよひておは
しければ。昔物語にたまどのにおきたりけん
人のたとひを思ひいでて。さやうなる事にや
とめづらしがり侍て。弟子ばらの中にげんある
ものどもをよびよせつゝ。かはりがはりにかぢさ
せなどなん侍ける。なにがしはおしむべきよ
はひならねど。母のたびのそらにてやまひ
おもきをたすけて。念仏をも心みだれずせ

そでどもをさしかさねてうちふるまひけうみてこころうきものの
うらみもこころぐるしきまでうらみかこちたまふ。それをんなも
いとかくしもあるべきさまにはあらねど。又云甲斐なきものに
思ひ沈みたまへるさまいとあはれなり。修行者ハ善道雅ノ子トヤラン
聞ヘシ
是ハ修験神仙法をうらわかくより学びたまひて。ことに
ずきよりもそれにのみ心をいれたまへるなるべし。
のそみをとげたまふことをいとねたくおぼしたれど。
八宮ほどの御ありさまにてハ。さまでの験者をもえ
招きよせたまはざりけるにや。三とせ四とせのかどこそは
おこたりたまはざりけめ。又ほどなくおこたりぬ。
てうらめしくおぼしたれど。験者ハ。
まことにいとうらやましくおぼしたれど。
ほどをもえしんぼうしたまはず。帰りたまひぬ。
そんくこころぼそくやうの
花天狗とやいハまの
事始ハ男の
の歟よそり
わきもこをおもひ
にハ歟将ヲカシ 細流記の又
三月そくり
つけてうハ三月のまれなる
人のごとくおもほしたり。
のちつね おほそ人のわ
ひとり妹ハあまたおはすれど
のさうりくにこづくれ
つゝて にらみの息ながら
千日の山籠ごのみは姉君
の歎きにうつて而後ハ
まで下山なくれうり
とゞめたてまつれり
七

のちつね おほそ人のわ
ひとり妹ハあまたおはすれど
人のごとくおもほしたり。
のさうりくにこづくれ
つゝて にらみの息ながら
千日の山籠ごのみは姉君
の歎きにうつて而後ハ
まで下山なくれうり
とゞめたてまつれり
八

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

このありさまを海みの浄衆の受戒をのぞきに仏前を伝教の業よりはじまりて

うしろにあるつゐ立を盂蘭盆の別当と人ということに不知と伝教の句し三業のおもむきの人といいそで推量せんとし

そしてそのあとにものそし浄衆うり
と浴室にうり伽藍小
寺和物語まで浄衆に

よそうれぬらちんもうごみのありさまの
そうこびをのぞきに仏前を伝教の業よりはじまりて
げよの給ことぐもの
めをつぐ盂蘭盆出家し
をけをもそまりてよ物うぎうに
もうめをそべきそこ
つ伝ことんもうぐ
と世そうをを
つうごうをん
このおび人ぐを
うくて伝つう
あるれとのそ
そこまでもそのもの

うくまでもそのことを
抄業のくよりさうを伝教よつむるり
この世よりさ人とやう
やうよ　抄出家しう
人ハ男女のひろびわう
それ業のまいるさ人
とやうやうり
わうりのらぐそれ
うんも　抄業の不感
そわのけよ教せられ
うこそ伝教よ仏合う
句し薬師経よ業病
鬼病四大病り業病と
お業と感そう病し鬼
病ハわのけ狐天狗を

うこうこそうれど
み人を　細抄業のさ
をほとまこそ抄て
業のくうら
もあんぐ
づげうよう
や迎こうれる
業の因幸とあやしこそ
まうこ紙この
よりうこと
てこをみうれべあ
給んもうべさ
抄浴衆のうとこを
うこ家のことよ
やまうみうくま

よ経せられくし。四大病ハ
地水火風よりおこりて
る風寒暑湿よりおこる
病なり。病と以路身も思
病なりて又業病なる
べし
又いかくまでゆるあな
つき 継とかてあと經
りハあらねど又たる
よ流浪させんとも思
はづらしくも

ひや給へバ。なわかんとぞりあきいかんとをす 細かりつの心をいふ 孟生王家無等倫 日本紀 王之子孫之
ぢまやありけん。ふゝもりとうりわざをと志 孟業の秘方をいへる也
ひしことみも侍らざりのよろづてころ
けそめくハ侍しうじやうさいひとりくまでれ
ちあぶるへさくハハ心ひかまへざりしを。
めづらかにもすくこえうせかしらば。
身をあげくるふやかじ。さ悔くよううびひ
おもくて。たゞしかりくしとかえて侍しざり
つかはさん。つゞかろかく物をなすれバ。いとよう 細 出家のことをいふ
とかやもくなんこつくハ心まへなりぬると。
なくなるへなりんいふしくもひかるのしふるる 浮舟の母也
よろしなん。ぶ出さぬとつげ志くを弓(?)し

月ごろくさせよりうに
御 小野の尼の人ゝよらせ
じとおもひめさるに
べしと又業の用ときこえし
るわれいふてよらひ
為し 三 以上を思
ハ女の小野へきてのゆくん
く
のぼりしまゝへ
孟業の僧都よくれてゆ
きまくして

くるひけどそわろう法
しぶるよ 孟 なりて死ん
と思いて出家させたる
愛執のねんをせぬるまで
ましてかんじ僧都の心
に

く侍れど。つきてかくしき給りて得いハずを
やうよ揃まえらしくや侍らん。かやとの中乃お 細 意
ひたぶるずからしひまゝで。とふらひ給し給
ど侍らんうしなはれてのちにてなきことわりなき 抄 僧都よ似合ぬ志かたゞかれ
もろ人へもはゞかりすとものきこえにかりまへ。 ども小君へおほせらるゝ
うしろさてあのかよもひあそぐとぶへらいとく 細 義の字二
急くぎりし人かりと。義のなうかくらく
もと今ハよりあいさんとなさん心ひまふ 孟 僧都の義のやうさもさふらん
あくの終事也いと義し志まれバうち 細 僧都の心也
とく人せとそむきまゐりしかくれどくくし
ひけどそわろう法しぶるよ。あやしくてふ 三 嫉欲の心也
をぬるをあやまりして女の御身といふものハ

いとおしうつくえめくさ　　畜
お出家ののちらいかく
つくあるべきさまをそうじ
月よりてのわざよはせう
そこお月よりて死後
ぶ事内事をとうとむ

あはせうこと　細　多智の
老ようらうこん美のあ
れどそんとうひ
人ちう　畜　法ふの事を
美のかーをうれし

ゐひとうぐう　三倍教の文をよ畜小乗
へのうべよせんし

いうべあうんつくおも　畜
もみべきうれとあ
てうり給　細　倍教の思惟人
うりむうし　倍教故障多
その行よおきそこさせ給うん
給　畜
ひようこんもう海あれがうばと
てうり給　みそうりうをうれとうりぐねちん
おうーうりきうこ　畜というてし　その人というて　そで
うこきうべうそ
人ちうこゆうり
ぬうこうぐうり
ぶべきうをうん　畜の旬
人ちうんありとづうのうちうを

うちうこのうこと
おけうのきうべせべ被飛
よちうんし
このありうこ風くうく
くうりつ　おおのう
いかりのうに銀よりも
も、うい畜のこうつぶ
りてともうくもうえ
し

つこえべきうべ
は多畜を被護せり
人うとうこいうふ
うべーこのうこ

このりけるこ多一切と
三畜の銭多のうとの
のううり

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

あとその山 細 名高き松を
ろも本立ちぐし 暁若
狭 近江よあり 但これ
名所なれどもいと多
山ぐち 細 吾よあち
なのあぢそ 細 海まで見ゆ
てそしう歌 なり
孟ちくの後あれども略
よむべきうた

のくもゐ 細 尾張
おれ明のあてして松さ
こそちりそでうつ 細
ひさぎ 細 海まで見ゆ
花 ちりよひ色のそ
こ四ぢにてひさぎぞ
そのそでうつ

月日のすぐる事はやく
仰 月見ればちぢに物こそ
こと悲秋よれむりの
のちのあきこと

その殿いとのみこやそうち
うんと お業のひとさま
するうらせうとの童を

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

やうなし給りて、これに係
奉の人よりくわりんとお
のぐまりあつて、むさき
あり

むりもてよつてもてこ
物字添つてもてこ
おまえてもり
うせみりのりと
細谷舟のこしくわれ
とおもてそ、いりくらい
つるく作多留云の男
よ葛ふくくくよりそ抱
いてくくよりそ抱
盂蘭舟のこと世と小芙
よ葛のそ
くふくくくぐくにふ
お 谷舟の母よおくも
せくくぐくぐくさいふ
ぐそくうんと
童よ葛のにくめ

みくれ、盛よ
くぐいてぐ給。もまくくぬ
くくをつて給。もまくぬ
むりをつてよつてこ
陸のものこと
くうぬまよ
いりくものう
き人とゆり
そりの給
とやふ紙
いおか
まぐくる人を
いてかくさよてそぐくもぐめれと、まぐ

そくおくくうよ 盂
ハ唯くいくふる恵こう
時むせうるをそ
抱をふ町のこふり
仰ふくをまそくうん
とそおくくうふこ
そりてお(ママ)ん
伺膳お墓ちくぬ
(ママ)神法師の人と出
家せむ功徳のふみ
(ママ)膳
あくぬぐ、兒ハ新ふよ
例くうそりてお

小まりくく
ぬさるくさくふ
浮舟を
みも、いくくう
をば、ふる抱
を給よそりう
ふよくくのふ
分をそづう
とおらくよ
三條より習朝ふく(ママ)役のまう重
つくめて、僧
法被みくく
ろくく法花
くうげ給りうーよ
てお(ママ)ん
浮舟を
ふ姫ふよくくまへぐ
うくふよそぐくくふれとそふ

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

けさらに大将よりの
御僧都の文は所々撰用に
て出て童にとらせし文
なりされどけさとそう

うけては仏のせめそふべき
ことかと師御示[illegible]
事にて後悔あれど
仏のをしへよもそむ
くべしとも 三 愛の執心
をとゞむる情ある者
さるゝとく[illegible]
て罪となるへきとなり
一日のすけのくどく
河心地観経曰若善
男子善女人発阿耨
多羅三藐三菩提心
一日一夜出家修道二
百万劫不堕悪趣
[illegible]
[illegible]

みまそぶけさ爰に大将殿のせうそこありて御あ
りさま尋ねとひ給ふにはじめよりありしやうくはし
くきこえ侍りぬ御心ざしふかゝ
けり中をそむき給ひてあやしきやまが
つの中に出家し給へることかへりてはほと
けのせめそふべきことなるをなむうけ給はりおどろ
き侍るいかゞはせんもとの御ちぎり
ぬあやまち給はで愛しうのつみをはるか
しきこえ給ひて一日のすけのくどくははかり
なきものなればなほたのませ給へとなむ
ことごとにはみづからさぶらひて申侍らんかつ
がつこの小君きこえ給ひてむ

あふれてみいちの功徳ハむさ
しるべしれと彼世よくまへ
こん 細 [illegible]
の心を去しきるんハ世
みましきなり 孟浮舟
そうくわふて

このよハ今は世をさひ
ゐりしまゐれんもと玄
しくさひし
浮舟の[illegible]よ例てこれ
さひぬいらうくれ
みくやうるよ[illegible]
あらし首尾ある也

まがふべくもあらずかきあきらめたまへ
れどこと人ハ心もえずこの君ハたれにかおはすら
むなほいと心うし今さへかくあながち
にへだてさせ給ふとせめられてすこしとざま
にむきてみ給へばこの子ハ今はと
世をおもひなりし夕ぐれにもいとこひし
とおもひし人なりけりおなじ所にて
見しほどハいとさがなくあやにくにおごりて
にくかりしかど母のいとかなしくして宇治
にも時々ゐておはせしかばすこしおよ
すけしまゝにかたみにおもへりしわらハ心
を思ひ出るにも夢のやうなりまづ母の

ひくゝなりたりと
三 浮舟はあるまじきやう
まらひまうでこし

おぼすらんと。それだにうかりなん物を、あそれ
ぞれしとさめりく侍るに、さるふこそれハ此ま
らんのかみとかありし人の、世の物語すめり 細 小君之
中になんみしあたりの事にやと、ほのかに思ひ出らるゝ事ある
心ちせし。其後とざまかうざまにつゞくれど、さらにはか
ばかしくもおぼえぬに、たゞひとりものし給し人の、いかでと 細 母の事也
おろかならず思ひためりしを、まだ世におはすらん
とそればかりなん心をはなれず、かなしきおり
〳〵侍るに、けふ見れば、此わらはのかほはちいさくて 細 薫之
見し心ちするにも、いとしのびがたけれど、いまさらにかゝる
人にも、ありとはしられでやみなんとなん思ひ侍る。 細 尼君の詞也
かの人もし世にものし給はゞ、それひとりになん
たいめんせまほしく思ひ侍る。

三 小君の事を中すなりとや人
みまくほしくおもへくを
まだみえぬと思るそひ
いかなり
すやのさまなれぬそく
りやのさまなりもてつそ
さひさしのみその心り
小君を入らと宮有
此ハもさはこそつれと
細 さハ宮のれと此段下
南に一段さつるさまつれ
とくし 孟 驕ハ奢説
そくや 佛ゆるゝやうなる
うしろまり 河 鶩彼
細 童心をもうちあかし
はな文ありさまの人ハ
三 浮舟のあはれをおぼえ
もと内よりこゝろえてかく

あやりぐ御すくのしまへぐ、さよのくひ 三 くく薫よりの給ひ
細 ひがことゝ
てしとゝにさしひでんや、猿よくれあし
なのめよりかろ〳〵しき御ほどにもおはしまさず
さずるどいひさはぎて、世にしらず心つよく
つゝおはしますこそと、皆いひあはせて、もやの
くまやのさはよ本下ふそいれうるせ
さは、うつれどまうれたく、ふてつひかく 浮舟おもひぐしくハ心つれとく
んもつまじくれど、まうさ侍れ文いとそゝそ 小君の心 小君の詞也 孟 薫の文也
つゝんぞう川のはおぼえめは、ゆるうせ
くわしつる侍るそとつめそしへば 尼君の詞也 おぼつかなきものよハ見むと 孟 夷同也
そやかなる所うるどいひくれわざれらん
むくらへんよらまものをさせ給めりけそう 細 見えたの

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1

ガラス使用

まして人のまねびから
んとし
のりゆしと　細 法の師
まのあたりそ僧都とば
かねむべきよしおもひ
けざやかなりみえたるを
くろとしぶ文字などの
字めかしくおもしろ
きなり　三　かもしをぬ山
いかにて思ひもよらぬ
くつがへしと
源氏のまうきにまとへるか
なり

して人めハいかにとかきもやり給はず
薫の哥
法の師と尋ぬる道をしるべにて思ハ
ぬ山にふみまどふかな。この人ハ見やわすれ 小君の事を薫の文の詞也
給ぬらん。こゝにハゆくゑなきかたみに 浮舟のゆくゑなき也
見る物にてなんなど、いとこまやかなり。
浮舟の心也
かくつぶつぶとかき給へるさまのまぎらハ
さんかたなきに、さりとてその人にもあら 我が此の浮舟身をあかしたく
尼さまなるをいふなるべし
ぬさまを思ひの外に見つけられきこえ
たらんほどのはしたなさなどを思ひみだれていとゞ
はればれしからぬ心ハいひやる
べきかたもなし。さすがにうちなきてひれふし
細 尼君の心也
給へれバ、いとよづかぬ御ありさまかなと見

とぞしるしありてや
孟 ちひさくてハいへ
くもりとみえ侍る
とし

つゝみ所なるべし
花 つゝハさぐ／＼ととの

わづらひぬ。いかゞきこえんなどせめられて 細 尼君の詞也
お 浮舟の詞也
心ちのかきみだるやうにし侍るほどためらひ
て、いまきこえん。むかしのこと思ひいづれ
どさらにおぼゆる事もなく、あやしう、いか 細 夢 五
なりける夢にかとのみ心もえずなん。すこし
しづまりてや、この御文なども見しらるゝ
事もあらん。けふハなほもてまいり
給ひね。所たがへにもあらんに、いとかたハ
お 文を尼の方へやる也
らいたかるべしとて、ひろげながらあまぎみ
お 是ハ作者の尼君の詞也
にさしやり給へれバ、いと見ぐるしき御こと
かな。あまりうたてゆゝしきやうなるハ、見
たてまつる人もつみさりどころなかるべし

源氏物語抄出有奥入水原抄以來
連篇累牘豈只數十家而已哉就中
河海鈔花鳥餘情乕花細流孟津等
者尤所宜熟翫而必不可不覧者也
雖然簡冊繁多而不暇徧観而盡識
焉今也弔所撰湖月鈔欲約其巻編
以便于學者因茲勘其出處則取諸
河海花鳥考其文意則取諸乕花細
流孟津刪其重複摘其精要抜萃而
雜記其餘有疑義者更閲諸抄述師

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

別3
60
1

説間亦一二管見隨某處而附鳴呼
門人小子見此物語者源巫相所謂
君臣之交仁義之道風雅之媒菩提
之緣因此鈔而有知之則庶幾教學
之一助云尒

延寶元年冬至月　北村氏季吟

書林　林和泉
村上勘兵衛
吉田四郎右衛門
村上勘左衛門

大正
12. 4. 25
購求

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号　本別3-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『湖月抄』　請求記号 本別3-1

ガラス使用